



NRU-east

National Railway Workers' Union

ダイジェスト版 2021年
No.164 6月3日

国鉄労働組合東日本本部
港区新橋5-15-5 交通ビル7F
発行責任者 大沼 元
編集責任者 常盤 達雄

職場の悩み
相談出来る雰囲気作り、
あとは一言
「さあ国労へ」

6/3 第2回夏季手当交渉開催

夏・冬連続
賞与の減

社員犠牲に不満は高まっている!

若手社員への「雇用不安」につなげてはならない!!

< 会社からの現状認識と考え方 >

「極めて慎重に判断せざるを得ない状況にある」との認識であるが、成長投資と同様、人材投資もしっかり取り組む。

夏季手当については厳しい経済状況を踏まえ、会社の持続的な発展こそが、社員還元のためさらなる充実、働きがいの向上、社員・家族の幸福の実現につながるという前提に立ち、直面する厳しい経営環境や経営課題について、あらためて認識を共有することが重要である。

そのためにも、『変革2027』のスピードアップ、新たな成長戦略を実現していくために、社員一人ひとりが健全な危機感を持って、積極的なチャレンジや自己啓発などに取り組んでいくことが不可欠である。

「赤字だからコストダウン=人件費削減」では 会社の発展にはならない!!

国労が取り組んだアンケートでは、「赤字だから仕方がない」と思いつつも「コストダウンは賃下げや賞与の削減以外でやってほしい」が大多数となっている。社員・家族のみに痛みを押しつけるだけでは、会社の持続的な発展にはつながらない。

今こそ社員・家族の切実な思いに応えて

2.5ヶ月+α を求める!